

西中の風

継続と徹底

伊丹市立西中学校長

大西 規之

素晴らしい人がいます

校内を巡っていると、「いつもトイレのスリッパがきれいに並べられているな」と思うトイレがあります。2年生が使う3階のトイレです。「どうしてかな」と思って、トイレの入り口を見てみると「スリッパ並べチェック表」が壁に貼られています。チェック表には、休み時間ごとに○や◎がつけてあります。それもサボることなく、毎時間きっちりつけられています。そこで私は休み時間にそのトイレの様子を見に行きました。スリッパを使った人もある程度きちんとそろえてトイレから出てきますが、最後に美化委員の人たちが「きちっと」スリッパをそろえて、それから授業に向かいます。私はその一連の動きをみて「すごい!!」と思いました。スリッパがそろおうと心がそろうし、次に使う人も気持ちよく使うことができるし、いいことづくめです。「このような人がいるからいつも『きちっと』スリッパがそろっているんだ」と思いました。「子どもってすごいな」「委員会活動ってすごいな」「生徒が自ら動くってすごいな」と思いました。このようなことが、様々な委員会活動で行われ、ますます西中がきれいで、整然とした学校になったらいいなと思います。



誰も見ていないけれど神様は見ている

NHKBSプレミアムで放送されている旅の番組での話です。手紙を書いた人の思い出の地を自転車で訪ねる番組です。私が番組を見た日の手紙は「小学生の時、近所の神社へ行くと落ち葉を集めたり草を抜いたり、いつも掃除をしている年配の男性がおられた。ある日、『どうして掃除をしているんですか。誰も見ていないし、仕事でもないのに』と勇気を振り絞ってその男性に聞いた。するとその男性は『誰も見ていないけれど、神様が見ている』と答えた。私のそれからの人生、その言葉を糧として生きています。その神社にぜひ自転車で訪ねてください」という内容でした。これは、「誰かが見ているからやる」とか「誰かにほめてもらうためにする」とか「お金をもらえるからやる」ということではなく、「ちゃんと見ている人は見てくれている」「きつと回り回って自分に『いいこと』として返ってくる」ということなのだと思います。大リーグで活躍中の大谷翔平選手は、運を引き寄せる具体策として、「ゴミ拾い」「部屋そうじ」「あいさつ」「審判への態度」「道具を大切に扱う」「プラス思考」「応援される人間になる」「本を読む」といった要素を挙げているそうです。「ゴミを拾うことは、運を拾うこと」だとも言っています。大谷選手は、落ちていたゴミを拾わずに通るようになると、ゴミから「お前、それでいいの？」と呼ばれているような錯覚に陥ると言います。「1つゴミを拾うたびに、運がたまる」「ゴミを見つけることが楽しみに変わっていく」。そんなことは、科学的に証明できるものではありません。しかし、大谷選手にとっては真実なのでしょう。大谷選手の活躍を見ると、自分の良心に恥じない善行の積み重ねが、天運を引き寄せているのは間違いないようです。

また、2年前の8月の朝日新聞に次のような記事が載っていました。報徳学園の村田外野手の記事です。「この夏ラッキーボーイと言われた。チームのためならなんと言われても構わない。ただ、ひそかに思っている。『偶然なんかじゃない』って。一桁の背番号をもらったことはなかった。「14」で臨んだ東兵庫大会、初戦で4打数2安打。波に乗った。6試合全て先発出場し、準決勝は内野ゴロが相手失策を誘って競り勝った。「もってるな」と、もてはやされ、甲子園で背番号「7」をつか

んだ。身長１６９ｃｍ。部員１００人超の報徳は体格もセンスも、人並み以上の選手がゴロゴロいる。そんな世界で、自分にできるのは、誰にでもできることを、誰にもできないくらい続けることだった。毎朝素振りをした。午前６時には寮を出て、グラウンド脇の鏡の前で、独り。雨の日も、真冬も。体がしんどい日や、眠気に負けそうな日もあったけど、一度決めたことだから、続けた。甲子園入り後も、練習後、帰りのバスまでのわずかな時間に必ず振った。グラウンドの外でもやれることは全てやった。ゴミが目にとまったら必ず拾い、トイレのスリッパを直し、試合前日には必ずうどんを食べてげんかつぎもした。そうやって、やっと来られた甲子園。大会注目の１番打者小園（こぞの）に続く２番として、全試合スタメン出場。小さな努力の積み重ねは、甲子園でも揺るがない自信になった。『負けたのにすごく誇らしかった』。

小さな努力の積み重ねや善行が大事だということを思い知らせてくれる記事だったと思います。

私も旅の番組の男性や大谷選手、村田君のような生き方がしたいと思いました。



ホームページを適宜更新中！！